

## 学位論文審査の結果の要旨

秦 範子

本研究は、東日本大震災の復興過程で露出した持続不可能な諸問題に抗う被災住民の社会的実践を考察し、持続可能な開発のための教育(ESD)の今日的な意義を明らかにしたものである。津波被災地では壊滅的な被害に見舞われたにもかかわらず自然を受け入れ、自然との共生、地域経済の発展、公正な社会を目指す持続可能な地域づくりに向けた被災住民による社会的実践が見られる。被災住民が地域再生の当事者として政府や行政の復興計画を批判的に検討する学習活動や計画づくりに参加する実践を、本論文では「オルタナティブな地域づくり」と定義する。

本論文を裏付ける実証的研究で取り上げたインフォーマルな学習は、持続不可能な諸問題に抗う被災住民が主体となり、民主化の次元を再生する「生産学習としての ESD」の萌芽的な取り組みであるが、学習活動を組織化し維持するための学習環境の整備と仕組みづくりの支援、さらにはその成果をいかにして社会に還元することができるのか、などの今後に向けた多くの課題を指摘した。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

## 最終試験の結果の要旨

秦 範子

最終試験は、平成28年1月9日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は秦範子君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。